



津市一般廃棄物最終処分場
所在地：津市美杉町下之川 4134 番地

津市一般廃棄物最終処分場

位置図



人と自然との共生へ

■事業主体

津市

■施工監理

株式会社エイト日本技術開発

〒154-8601 東京都中野区本町 5-33-11

■施工

(新最終処分場本体工事)【施工】

清水・東海土建・藤谷・三重農林特定建設工事共同企業体

●＜代表構成員＞清水建設株式会社

〒141-8370 東京都中央区京橋 2-16-1

(前処理施設・浸出水処理施設建設工事)【設計・施工】

●住友重機械エンパイロメント株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-25-9

このパンフレットは再生紙を使用しています。





「安全・安心」を極限まで追求。自然環境との調和を配慮し、万全の施設整備を行います。

施設紹介

津市一般廃棄物最終処分場は、津市リサイクルセンターで選別処理された破碎後の不燃物を埋め立てる施設として、平成25年6月より「安全、安心、かつ、地域や自然との調和」を基本方針として建設を開始し、平成28年4月より供用開始しました。

全体埋立容量として、長さ約130メートル、幅約45メートル、深さ約15メートルの埋立槽2槽で約18万立方メートルを計画しています。

本処分場は3つの特徴があ

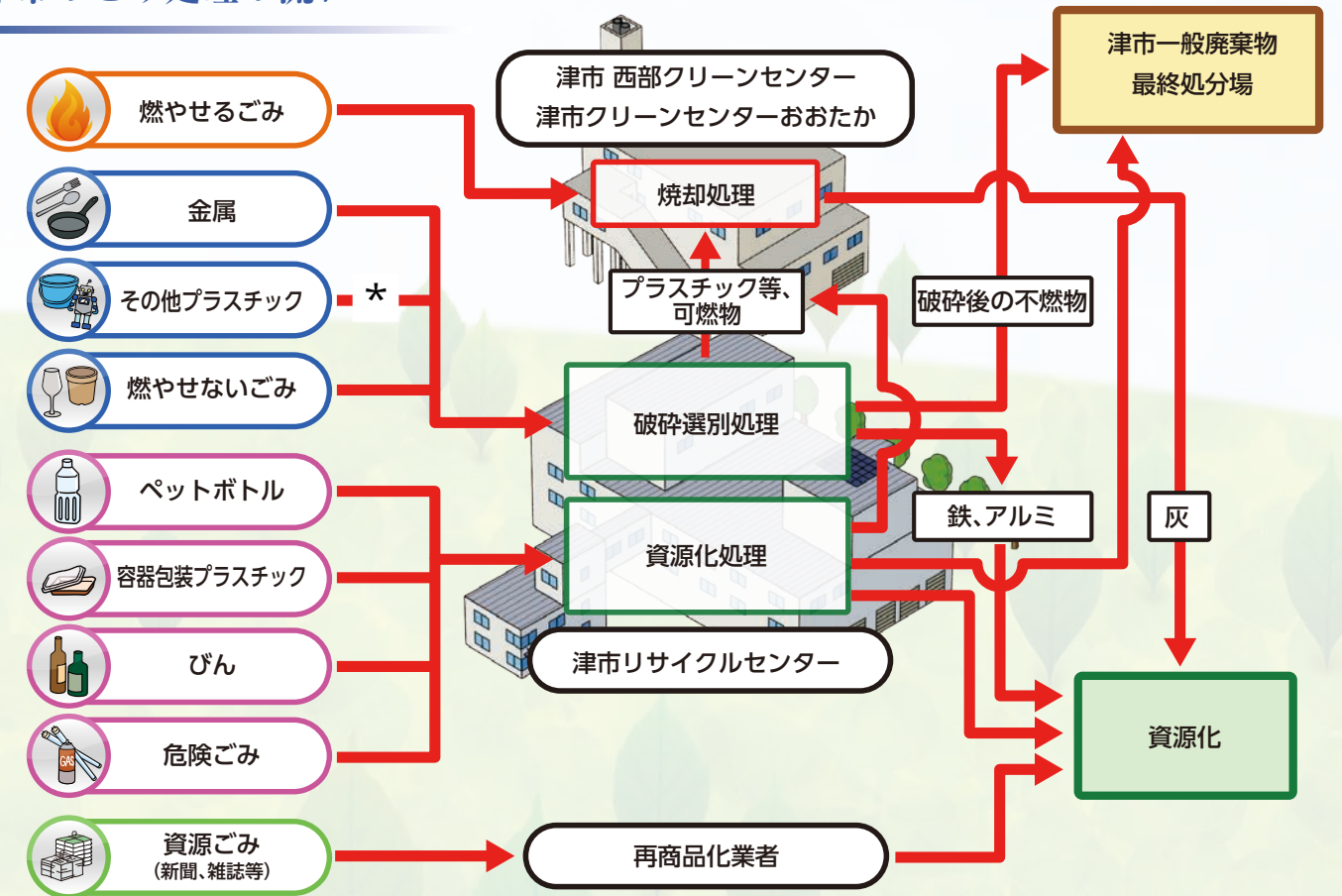
り、一つ目は埋立槽を屋根で覆うクローズドシステムを採用し、雨水の侵入やごみの飛散などを防ぎ、内面は二重の遮水シートと漏水検知システムで、安全性を確保していること、二つ目は埋め立て前にごみを洗浄する前処理施設を設置することで、埋め立て後の散水と併せて、ごみの早期安定化を図ることにより、周辺環境へのリスクを抑えていること、三つ目は使用した水を浄化処理し、洗浄水や散水として循環利用し、場外へは

一切放流しないことにより、安全、安心を追求した施設としております。

また、照明にLEDを使用し、屋根には太陽光パネルを設置することにより、発電した電力を照明に活用し、省エネルギー化を図っております。

運転管理においても情報公開やコミュニケーションの場を設置し、周辺住民の皆様にご参画いただくことにより、より安心、安全で透明性の高い施設運営を目指してまいります。

津市のごみ処理の流れ



* 令和6年4月1日よりその他プラスチックについては資源化処理をしています。

施設概要

【施設の種類】 一般廃棄物最終処分場
(クローズドシステム処分場)

【埋立廃棄物】 破碎後の不燃物

【事業区域面積】 約40ha

【埋立面積】 約1.2ha

【埋立期間】 平成28年4月1日～令和39年3月31日

【浸出水処理水】 無放流

【浸出水処理施設】 38.0m³/日

【浸出水調整槽容量】 270m³

【前処理施設】 31.3t/日



搬入不燃物の洗浄を行なう日本初のシステムを導入し、最新の技術・設備で浸出水を適正に処理します。

施設の特徴

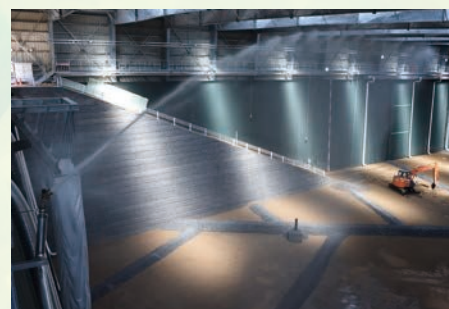
1 周辺環境への影響に配慮したクローズドシステム

- 鉄筋コンクリート製の埋立槽を屋根で覆い、雨水の流入やごみの飛散を防止し、内面に遮水シートを敷き、水を外部に漏らさない。
- 漏水検知システムで、万一の浸出水の漏水を監視。



2 埋立ごみを洗浄して廃棄物を早期安定化

- 前処理施設／埋立前にごみを洗浄。
- 散水設備（埋立槽）／埋立後は埋立槽に散水。
- 廃棄物を早期安定化／埋立中はガスや臭気などの発生が少なく、埋立完了後埋立槽の早期廃止を図る。



散水状況



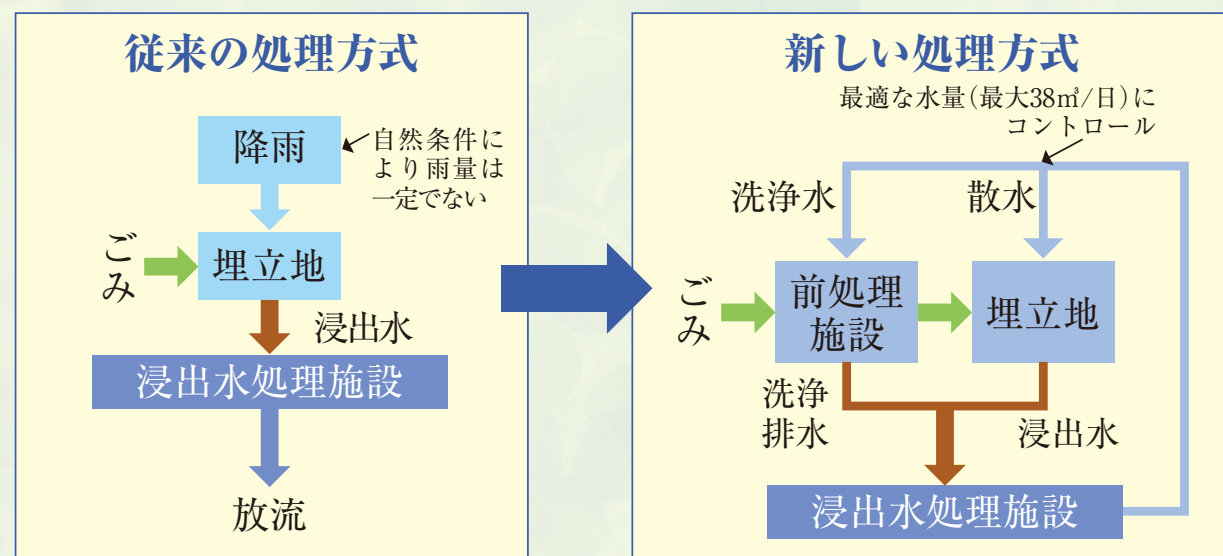
4 周辺住民の皆様に参画いただき、透明性の高い施設運営を目指します。



中央監視室

3 使用した水は浄化処理し場内循環利用・無放流

埋立ごみを洗浄した後の洗浄排水および埋立槽への散水に伴う浸出水は、浸出水処理施設で浄化処理し、再び洗浄水、散水として循環利用し、場外へは放流しない。



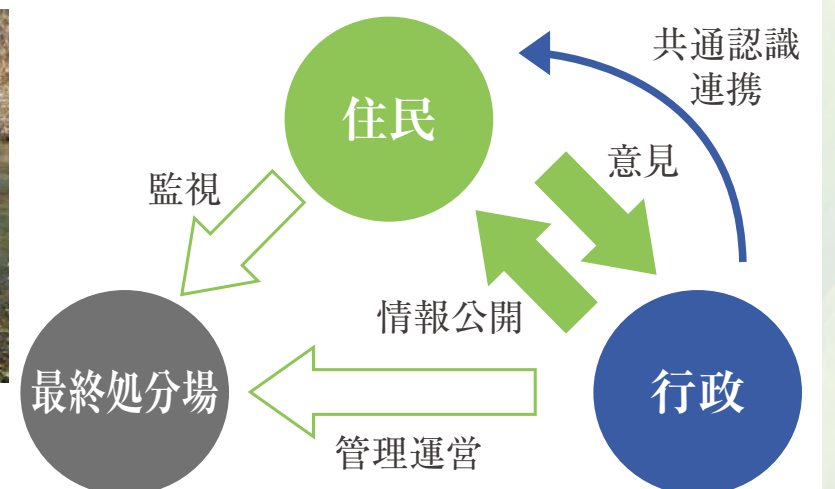
水質調査



騒音調査



地下水調査



- コミュニケーションの場を設置
- 住民による監視
- 監視モニタリングデータなどの情報公開



前処理施設

不燃物を受入れ、洗浄装置で1時間の浸漬洗浄及び空気攪拌洗浄を行い、不燃物に付着した汚れを除去します。洗浄排水は浸出水処理施設に送られ、再び洗浄用水として利用できる処理されます。洗浄された不燃物は埋立槽へ搬出し、埋立処分します。



流入調整設備

埋立槽からの浸出水と前処理洗浄排水を貯留します。水量の変動を緩和、空気攪拌により水質を均一化し、処理設備への汚水注入量を調整することで、安定した処理を行います。



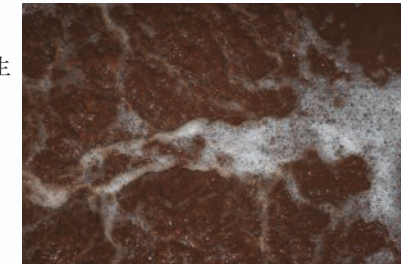
前凝集沈殿処理設備

水に溶けたカルシウムを炭酸ソーダと反応させることにより、炭酸カルシウムの固体として沈殿除去します。



生物処理設備

水中の有機物や窒素を微生物の力で分解除去します。



凝集膜分離設備

膜を通すことで生物汚泥と処理水を分離します。膜の目が非常に細かいため、きれいな処理水が得られます。



高度処理設備

活性炭で僅かに残った汚れ分を吸着除去します。キレートで水銀及び一般重金属を吸着除去します。



脱塩処理設備

処理水を循環利用することで、濃縮する水中の塩分を、脱塩装置及び乾燥固化装置を用いて乾燥塩にし除去します。



消毒・処理水貯留設備

次亜塩素酸カルシウム錠剤により消毒し、埋立槽の散水及び前処理の洗浄水として循環利用します。



前処理・浸出水処理フロー

